



# がんばったことと成長のつながりを キャリア・パスポートで実感。 進路や生き方につなげていく

だいたう  
大東高校（島根・県立）



写真右から、主幹教諭の錦織 剛先生、3学年主任の田邊映美先生。

HRの時間を中心にキャリア・パスポートを活用した定期的な振り返りを行い、日々の学びを生徒一人ひとりの将来につなげる取組をご紹介します。

## 少

子化の著しい地域にあり、学校の魅力化に地域ぐるみで取り組んでいる大東高校。つながる力（人間力）つなげる力（学力）つむぐ力（社会力）を備えた生徒の育成を目指し、地域をフィールドとした探究活動やチャレンジ教育が特長だ。そのさまざまな教育実践を生徒一人ひとりの将来へと着実につなげるため、オリジナル手帳やポートフォリオに日々の記録を蓄積し、それらを年3回に渡りキャリア・パスポートに整理。3学年では「学びの報告書」にまとめることで高校生活を総括する、複層的な取組を行っている。

## 背景・わらい

### 取組を増やすのではなく そこからの学びを最大化させる

キャリア教育を担当する錦織 剛先生は、同校の生徒について「素直で礼儀正しくとても気持ちの良い生徒たち」と認める一方で、「主体性の育成」という積年の課題もあがる。数年前の教員の議論のなかでも、「なぜ」を考えずにただ「やる」「どうがんばればよいかわかっていない」「一歩を踏み出す勇気がない」など、主体性に関する課題が目立ったという。

そんな生徒たちの主体性を、地域社会の中で自らテーマを見つけて挑戦する経験を通じて育んでいこうと、同校は2014年度から地域と連携したキ

図1：オリジナルのキャリア・パスポート、ルーブリック評価表

ダウンロード可

高校1年①

(1)今の自分を客観的にみて、ルーブリック詳細をグラフにしてみました。(これくらいかなと思う所まで塗りつぶしてください)

評価能力	0	1	2	3	4
目標設定					
実行力					
自己管理能力					
表現力					
協働する力					
主体的な学習					
探究力					
自己管理能力					

(2)特に伸ばせたと思う「資質・能力」について、具体的なエピソードを書きましよう。(どんな場面でも、どんな風に伸ばせたのか)

伸ばせたと思う資質・能力

資質・能力	レベル
1 チャレンジ精神 「自分から積極的に行動し、周囲の人々を巻き込むことができる」	レベル1
2 探究力 「自ら課題を設定し、主体的に探究することができる」	レベル1
3 協働する力 「他者と協力して課題を解決することができる」	レベル1
4 広い視野 「自分以外の立場から物事を考え、多角的に物事を捉えることができる」	レベル1
5 実行力 「目標を設定し、計画を立て、実行することができる」	レベル1
6 表現力 「自分の考えや感情を適切に表現することができる」	レベル1
7 自己管理能力 「自分の学習や生活のペースを自分でコントロールすることができる」	レベル1

大東高校  
キャリア教育目標

主体性を育むために伸ばしたい7つの資質・能力

上は1年生第2回のキャリア・パスポート。最初に取り組みやすいルーブリックの数値選択、後ろに記述設問を置くことで書きやす工夫。右はルーブリック評価表。

キャリア教育の推進に力を入れている。その一端を担ってきた3学年主任・田邊映美先生は、「生徒が自ら何かをしたいという『WIII』を重視して取り組んできた」と語る。コーディネーターやNPO法人の協力も得て地域連携を推進。総合的な学習(探究)の時間(以下「総合」)では、地域の大人や行政へのインタビューを行うフィールドワークや、地域課題の解決に取り組む探究活動などを実施。課外においては、他校生との協働プロジェクトや、生徒のアイデアを地域に活かすコンテストへの挑戦などを後押ししている。

こうした活動による生徒の成長は生徒アンケートの結果にも表れ、手応えをつかんだ同校。キャリア教育の質をもう一段引き上げるため、次に取った施策は、新たに取組を増やすことではなく、取組を振り返り、次につなげる仕組みを作ることだった。

主体性を発揮できるようにするために身につけたい資質・能力として、「チャレンジ精神」「寛容さ」「協働する力」「広い視野」「思考力」「表現力」「計画実行力」の7項目を設定し、ルーブリック評価表を作成。さらに、市内の小・中学校と共に取り組む島根県の「キャリア・パスポート調査・研究事業」を活用して、そのルーブリック評価を組み込んだキャリア・パスポートを開発し、18年度より運用している(図1)。

「主体性の伸長を目指してさまざまな経験や機会を増やしてきましたが、生徒アンケートの結果では主体性に関する項目の向上は一部の生徒にとどまっておらず、全員の底上げまでには至っていない状況です。その一因として、振り返りが十分にできていないために、次に踏み出す一歩や目標が見えにくくなっていることが考えられます。そこで、キャリア・パスポートというツールを取り入れて、

日々の学びの意味と自分の成長の振り返りを重ね、今後の行動や将来に活かしてほしいと考えています」(錦織先生)

**実践**

**日々の学びから進路決定まで  
振り返りを積み重ねる**

同校がキャリア・パスポートの導入で重点を置いているのは、記入欄を埋めることではなく、書くことを通じて次の行動への意欲や将来の目標へとつなげることだ。その効果的な実践のため、スパンの異なる3つの振り返りサイクルを設計、運用している(学びのサイクル)。

その1つ目は、手帳とポートフォリオを活用した日常的な振り返りだ。同校ではオリジナル手帳「カルデアの牧人」を作成し、全生徒に配布している。手帳には、時間割や予定のほか、その日の授業や活動を振り返って「心が動いた・興味・関心が広がった・もっと深く知りたい」と思ったことを記入する欄がある。「たくさん書くことより、生徒が負担感なく継続できることを優先。一律に毎日書くことは強制せず、印象に残ったことがあった日だけでもメモしておくように伝えています」(田邊先生)

また、探究活動や進路学習で取り組んだワークシートや成果物などは1つのファイルに収集し、各自のポートフォリオとして保存しておく。

「自分が何にどう取り組むかを考えたが、このファイルを見返せば思い出せる

状態にしておくことが大切。あまり難しく考えずに、このファイルにためていこうと呼びかけています」(田邊先生)

2つ目のサイクルは、こうして蓄積した日々の記録を基に行う、年3回(4・9・3月)のキャリア・パスポートへの記入を通じた振り返りだ。記入項目は時期によって若干異なるが、基本的な流れは共通している。初めにルーブリック評価表を見ながら、7つの資質・能力に関して現在の自分の到達状況をチェック。前回と比べて伸びた資質・能力に注目し、何が成長につながったか、蓄積した情報から掘り下げる。ほか、授業や進路学習、「総合」などで印象に残っていることや学んだこと、それによる自分の変化などを挙げ、将来取り組みたいことや、卒業後の進路に対する考えも記入する。

取り組み方は担任ごとに工夫しており、田邊先生の場合は、前回の記入内容を見直し、現在の自分と比較することを大切にしているという。

「現在だけ見ていると成長はわかりにくいですが、以前と比較することで『今できていることが数カ月前はできなかった』『前はこんなにルーブリック評価が低かった』などと気づき、自分にどんな力がどれだけついたのかを実感し、自信につながるかと考えているからです」(田邊先生)

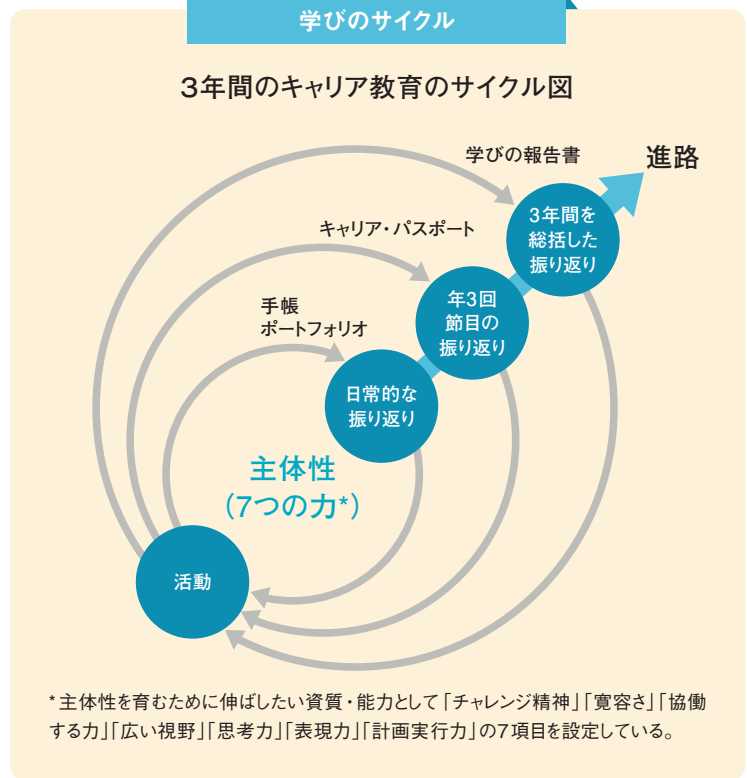
なかなか書き進められない生徒もいるが、「何かすこいことを書かねばならないと思っている生徒も多い」と田邊先生。「〇〇ということがあったよね。そ

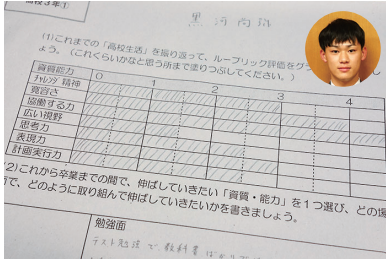
図2: 学びの報告書

ダウンロード可

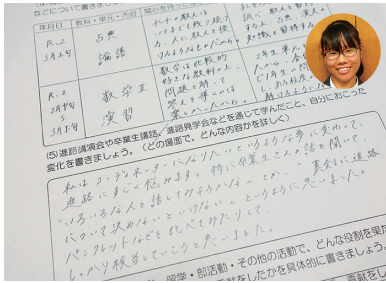
学 び の 報 告 書 (進学希望者用)			
3年( )組( )番	ふりがな	記入日(完成した日)	
	氏名	2020年 月 日	
1. 学校の課程で関心を持って取り組んだこと・取り組んでいること			
学校	科目名・テーマ・論文等	関心を持った理由・内容	学んだこと・得られたもの
中学校 ( )年			
高校 ( )年			
高校 ( )年			
高校 ( )年			

高校3年間で振り返り、「学校の課程で関心を持って取り組んだこと・取り組んでいること」「学校のキャリア教育で実施されるプログラムへの参加・取組状況」「社会体験その他の活動(ボランティア活動、留学・部活動、就業体験、その他の活動)」「興味・関心事項」「得意なこと・苦手なこと」「将来取り組みたいこと」「進学(就職)後、達成したい目標」などを記入する。





剣道部の活動に力を入れてきた黒河さんが3年1学期に記入したキャリア・パスポート。1年生のころと比べると、「協働する力」の自己評価レベルが2から5にアップした。(写真上) 藤原さんは地域活動に取り組むなかで、自分がやりたいことを発見。2年3学期のキャリア・パスポートに、「コーディネーターになりたい」との目標を書いている。(写真下)



「自分一人では行き詰まりがちですが、他の生徒と共有することで自分がない視点ももてると、振り返りの幅が広がります。また、自分のがんばりや成長を人に知ってもらい、「すごいね」の一言をもらうと、自信がつき、次への意欲につながると思います」(田邊先生)

そして、3つ目のサイクルとして、「学びの報告書」の作成を通じて3年間の総括を行う(図2)。「学びの報告書」はキャリア・パスポートに記録してきた自身の活動やそこで学んできたこと、成長などを集約するシートで、今年度から3年生が6月に取り組む運用を始めた。その記入内容を、就職のための履歴書や進学のための志望理由書の作成、面接対策にも活かしている。

「自分の強みは人との協働を大切にしていることだと思います。所属する剣道部では、チーム力を大事にして活動し、みんなで力を合わせて勝利を重ねてきました。そのなかで『協働する力』が徐々に伸びてきたのだと、キャリア・パスポートを見返してみても改めて感

生徒の変容

自分の目標や強みを見つけ 将来の展望へ

今年度、3年間キャリア・パスポートに取り組んだ最初の学年が3年生となり、進路決定を迎えた。従来なら、生徒たちは就職のための履歴書や進学のための志望理由書の作成に悪戦苦闘し、教員の進路指導にも労力がかかる時期だ。しかし、今年度は様子が異なる。教員が特別な指導を行わなくても生徒自身が「学びの報告書」を仕上げ、履歴書や志望理由書の記入にスムーズにつながっている。

「自分のことを客観的に見て語れる生徒が増えました。振り返りを積み重ねてきた効果だと感じています」(田邊先生)

実際に振り返りのサイクルに取り組んできた3年生からは、がんばってきたことと自身の成長のつながりを実感する声が聞かれる。3年生の黒河尚弥さんは、1〜2年生のときは振り返る意味がわからず面倒にも感じていたが、3年生になって「その大切さがやっとなかった」という。

「主体性を育みたい」という思いから出発し、地域課題探究をはじめとするキャリア教育の充実を図るだけでなく、

今後の展望

生徒の変化を後押しし、見取り 取組内容を進化させていく

「大切にしたいのは、目の前の生徒の力を伸ばすために何が必要なのか、常に考えていくこと。定期的に実施するアンケート結果なども踏まえ、生徒の状況や学校の課題に合わせて、重点的に掲げる資質・能力や、振り返りの手法を常にアップデートさせていきたいと考えています」(錦織先生)

じました。来年は社会人になりますが、就職先を選んだのは、社員同士の協働をモットーにしている企業です。自分の強みや大切にしたいことに目を向けてきたことが、進路選択にも役立ち、自分に合う企業への就職につながったと思っています」(黒河さん)

また、振り返るなかで自分の目標を明確にしていった生徒もいる。3年生の藤原里紗さんもその一人だ。

「2年生のとき、地域の他校生と一緒に地域情報誌を作る課外活動を始めました。普段は忙しくて余裕がないのですが、節目に立ち止まってキャリア・パスポートに取り組むことで、自分が何を学んできたのかを振り返ることができ、将来やりたいこともはっきりしてきました。私はこれまで人から勧められて『保育士になりたい』『社会福祉士になりたい』などと言っていました。今は自分が地域活動で成長した経験を基に、『学校と地域をつなぐコーディネーターになって子どもたちが伸びる支援をしたい』と考えています。その目標に向けて、大学に進学し地域社会と教育を学びたいと思っています」(藤原さん)

その効果を高める振り返りを強化してきた同校。今後は探究活動の取組が一層広がるのが期待される。

「地域課題の解決策というところ、大上段に構えて介護や少子化など大きなテーマに目がいかがちです。しかし、振り返りを行っていくなかで、音楽やスポーツなど自分が打ち込んでいるものや得意な面を自覚し、それをどう地域に役立てられるかという自分を主語にした発想ができるようになると、地に足がついた高校生ならではの提案も多くなるだろうと楽しみにしています」(錦織先生)

キャリア・パスポートは市内の小・中学校でも導入されており、今年度の同校入学者には中学3年間キャリア・パスポートに取り組んだ生徒も多い。「振り返りを次に活かす取組が小中高つながったとき、キャリア・パスポートの本当の効果が出るはず。小学生からの学びの蓄積が今の自分を形成していることを感じながら将来像を語れるような生徒が今後増えていくのではないかと錦織先生。そうした生徒の変化に応じ、手法は柔軟に変えていく方針だという。